

大学基準7. 教育研究等環境

中期目標

- 【目標1】 教育研究等を支援する環境を適切に整備する。
 【目標2】 学生・院生並びに教職員の教育研究環境を多角的に支援できる図書館サービスを展開する。
 【目標3】 大学構成員の立場に立ったキャンパス環境の整備を行う。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 初年次教育における修学基礎力の向上を目的として、教養科目群でSAを配置する。 [1-2] e-learning 利用環境を組織的に整備し、定期的な利用講習やコンテンツの作成補助等を行うことで、講義時間外学習時間の確保、繰り返し学習による知識の定着、資格試験準備対策等のための教材作成に向けた授業支援を行う。		[1-1] ①授業評価アンケート ②GPA 分布・推移 ③単位取得状況分布・推移 [1-2] ①教育支援に対する教員満足度	
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学生間、特に初年次学生間のピアサポートを促す一助として、SAを活用する。SAの専門性を高める研修とともに、SAを有効活用するための教員研修を行なう。 [1-2] インターネットを利用した授業配信や、学習資料のwebを通じた常時利用について、科目担当者や情報処理課と共同して検討する。実践例を収集し「10分FD」等で周知を図る。	[1-1] 年度始めにSA研修を行ない、SAの適正なあり方を徹底するようにした。研修に教職員も参加し、SAを活用する立場としての意識を高めた。 [1-2] webカメラを購入し、インターネット配信の環境を整備した。非常勤講師説明会で、特に公認欠席者の学習権保障の方策として、インターネット配信の実施を訴えた。	達成度 70% [1-1] SA研修会スライド [1-2] インターネット配信を含めた遠隔授業の実施の諸問題を洗い出すことから始める。この事が、2キャンパスとなる2021年度の授業のあり方につながると考えている。
2019年度	年次計画内容	[1-1] 学生間、特に初年次学生間のピアサポートを促す一助として、SAを活用する。SAの専門性を高める研修とともに、SAを有効活用するための教員研修を行なう。 [1-2] インターネットを利用した授業配信や、学習資料のwebを通じた常時利用について、科目担当者や情報処理課と共同して検討する。実践例を収集し「10分FD」等で周知を図る。	

(2) 図書委員会

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 各種図書館ガイダンスのあり方を見直し、学生の有効な図書館利用を促進する。 [2-2] 教員の図書館利用環境について調査し要望があれば、有効な改革を検討し実現する。 [2-3] 新書庫設置の可能性を追求しつつも、現状書庫の有効活用のため、利用度の低い資料の整理を行うなど収納スペースの確保を行う。		① 利用者アンケート ② 各種図書館利用度数 ③ 書架スペースの棚数 ④ 資料増減量	
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。 昼休みを活用したデータベース等の利用ガイダンスを実施する。	① 新入生オリエンテーションは4月3日から27日にかけて、全学部・学科の基礎クラス対象に図書館の基本的な使い方をパワーポイントやDVD動画を活用して説明し図書館ツアーを実施した。 ② 情報リテラシーガイダンスは、論述作文と連携し、前期は5月中旬にOPACでの図書検索・館内での所在確認、新聞記事データベース、マイライブラリの使い方等の説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。後期は10月中旬にCiNiiを活用した雑誌論文検索と所在確認・入手方法についてのパワーポイントやDVD動画を活用し説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。 *利用者アンケートに基づく達成状況 今年度から情報リテラシーガイダンスのアンケートは、昨年度と設問の内容を次のように変更し5段階で評価を行った。 (1)情報リテラシーの意義についての理解 ⑤良くわかった⇔①よくわからなかった (2)OPACで検索し図書を見つける方法について ⑤良くわかった⇔①よくわからなかった (3)新聞記事DBを利用して新聞記事を見つける方法 ⑤良くわかった⇔①よくわからなかった (4)マイライブラリで自分の貸出情報を確認する方法 ⑤良くわかった⇔①よくわからなかった (5)このガイダンスが大学での学修に役立つか ⑤役にたつ⇔①役にたたない 総合評価として「ガイダンスは役に立つか」との	【情報リテラシーガイダンス】 アンケートの設問内容を変更したため昨年度との単純な比較はできないが、ほぼ前年度と同様の傾向にあると思われる。 論述作文と連携した情報リテラシーガイダンスは、レポートや論文を書くための情報収集リテラシーの涵養に貢献しているものと考えられるため、引き続き実施していく。 【ゼミガイダンス】 前年度に比較して実施ゼミ件数がわずかだが増加している。教員に対してゼミガイダンスの効果をPRし申し込み件数のさらなる増加に努める。 【昼休みガイダンス】 実施件数は0件だった。実施方法、周知方法の改善、教員との連携を強化し内容の改善を行い実施する。

7. 教育研究等環境

	<p>設問に前期では 86.3%、後期では 78.7%の学生から⑤④の評価を得た。その他の項目でも、前期で 80%、後期で 70%の学生から⑤④の評価を得た。</p> <p>③ ゼミガイダンスは3年次・4年次及び大学院のゼミを対象にゼミの担当教員と図書館担当者がガイダンス内容を吟味しゼミの課題に適合した資料の紹介やデータベースの使い方の説明を行い、実習課題で知識の定着をさせている。</p> <p>*ゼミガイダンス実施件数（図書館利用度数）に基づく達成状況 前期5ゼミ（人間・こ発・法学研究科・臨床心理学研究科）、後期3ゼミ（経済・人間・こ発）の合計8ゼミ 56名に対して実施した。</p> <p>④ 昨年に引き続き、図書館サービスやデータベースの使い方を昼休みの時間帯を活用して実施する図書館昼休みガイダンスとして、12月に「図書館に所蔵しない図書や雑誌論文をマイライブラリの機能を活用して他大学から取り寄せる方法」を企画して周知したが、学生・院生からの参加は無かった。</p> <p>*昼休みガイダンスの実施件数（図書館利用度数）に基づく達成状況 今年度は0件だった。</p>		
	<p>[2-2] ラーニング・コモンズを効果的に活用する方策を検討し利用環境の整備に努める。 教職員・学生からのラーニング・コモンズを活用したイベント等の利用希望については積極的に応えて行く。</p>	<p>ラーニング・コモンズも開設後、2年が経ち学生の自学・自習の場として定着している。また、教員によるゼミやゼミ成果の発表の場としての利用も着実に増えている。 新たな試みとして、リラックスして学習できるように2018年5月からバランスボールを配備し、学生が違和感なく利用していることを確認している。多様な利用形態の一環とし7月20日に学生による英詞の朗読会を実施し10名程度の教職員の参加を得た。10月5日には昨年度に引き続き村上春樹ファンの集い「集まれハルキスト」を開催し8名の教職員・学生の参加を得た。 学生の利用実態を調査した結果に基づき、2階入口の利用時間帯を2018年4月に(9時～17時)から(10時～18時)に変更した。</p>	<p>学生の利用が定着し特に昼から夕方にかけての利用が伸びている。その理由の1つとして、2階入口の利用時間帯の変更の影響があると推測される。また、小上がり席をステージに見立てゼミ発表するなど、こちらが想定していなかったような活用が見られるようになってきた。 今後も学生や教員の利用状況を注視し、また要望にも応えながらラーニング・コモンズの活性化を図って行く。</p>
	<p>[2-3] 理事会の決定に基づき、新札幌キャンパスでの図書館施設及び江別キャンパスでの新書庫の設計について具体的な検討を行い、資料移動及びそれぞれのキャンパスにおける図書館運営について基本計画案の策定を目指す。</p>	<p>江別キャンパスの書庫増築については、新札幌での拠点展開が落ち着いてから具体化することになった。今年度は、新札幌キャンパスの図書館施設を分館と位置づけ基本設計を行った。また、新札幌分館で展開する資料の範囲や運用方針についての検討を行った。人員配置や業務委託内容等については次年度検討することとした。</p>	<p>理事会からの要請を受け、新札幌キャンパスの図書館施設について検討を行い、基本設計を完了させた。 次年度は、新札幌キャンパス図書館の運営方針等を策定し人員配置、業務委託内容、移動対象資料及の選定及び移動方法等の具体化を行い、2021年4月からの運用に備える。</p>
2019年度	<p>年次計画内容</p> <p>[2-1] 新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。 昼休みを活用したデータベース等の利用ガイダンスを実施する。</p> <p>[2-2] ラーニング・コモンズを効果的に活用する方策を検討し利用環境の整備に努める。 教職員・学生からのラーニング・コモンズを活用したイベント等の利用希望については積極的に応えて行く。</p> <p>[2-3] 理事会の決定に基づき、新札幌キャンパスでの図書館施設及び江別キャンパスでの新書庫の設計について具体的な検討を行い、資料移動及びそれぞれのキャンパスにおける図書館運営について基本計画案の策定を目指す。</p>		

(3) 研究支援委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)	達成度評価指標【指標1】
<p>[1-1] 個人研究費の次年度持ち越しのための研究を行う。</p> <p>[1-2] 研究業績をデータベースシステムへ入力する仕組み・枠組み・支援体制を整備する。</p>	<p>[1-1] 他大学の状況を調査し、本学における実現可能性を見極める。関係部署に実現性の研究をしてもらう。</p> <p>[1-2] 研究業績記入等教員の最低限の義務事項をまとめ、研究業績の公表義務を周知すると共に、研究費支給の一条件とすることの検討を始め。また所属長から働きかけを行う</p>

		と同時に、アクティビティの高い教員を評価する（表彰等）。	
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[1-1]（個人研究費関係）</p> <p>(1) 傾斜配分の検討を行う。</p> <p>(2) その他、個人研究費の柔軟な運用の可能性を検討する。</p> <p>[1-2]（外部資金関係）</p> <p>(1) 科研費への応募に関して全教員宛にメール・掲示を通して適切な時期にアナウンスし、申請対象者に説明会を開催する。</p> <p>(2) 科研費申請者に対しては個別の対応を行い、研究者の支援を積極的に行う。</p> <p>(3) 研究促進奨励金の「重点研究」のカテゴリでは、日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金への応募を条件とすることで、外部資金の獲得を目指す。</p>	<p>[1-1]</p> <p>(1) 議論にはいたらなかった。</p> <p>(2) 旅費規程の変更に伴い、出張関連の研究費に関して、柔軟な運用が若干可能となった。</p> <p>[1-2]</p> <p>(1) 科研費のアナウンスに関して、全教員宛メールおよび掲示を適切な時期に行い、申請対象者への説明会を開催した。</p> <p>(2) 科研費申請者に対して、個別対応を適切に行い、積極的に支援した。</p> <p>(3) 研究促進奨励金「重点研究」への応募があり、日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金に応募し採択された。</p>	<p>[1-1]</p> <p>(1) 計画通りにはできなかった。</p> <p>(2) 個人研究費の運用が、若干柔軟にできるようになった。</p> <p>[1-2]</p> <p>(1) 科研費のアナウンスは、計画通り十分に実施した。</p> <p>(2) 科研費申請者へのサポートは適切に行われた。</p> <p>(3) 研究促進奨励金「重点研究」の応募があり、外部資金を獲得することで、外部団体との連携を図る意図は実現できた。</p>
	<p>[1-3]（研究業績関係）</p> <p>(1) 業績登録を researchmap に一元化した。情報の効率的利用、評価のために、状況をモニタする。</p> <p>(2) 研究アクティビティの高い教員の評価基準について検討する。</p>	<p>[1-3]</p> <p>(1) 業績登録を researchmap に一元化し、状況のモニタを開始した。</p> <p>(2) 研究アクティビティの高い教員に関する評価基準の検討は、従来より科研費の研究代表者には高い評価を与えている。研究代表者経験者には研究促進奨励金の選考審査委員会委員の候補にしている。それ以外の評価基準の検討は行わなかった。</p>	<p>[1-3]</p> <p>(1) 業績登録を一元化できたため、モニタリングが効率的となった。</p> <p>(2) 科研費の研究代表者については、従来より高い評価を与えている。その他の評価基準に関しては検討していない。</p>
	<p>[1-4]（在外・国内研究員制度）</p> <p>(1) 現行ルールで特段の問題は見つからないが、継続的にチェックしていく。</p>	<p>[1-4]</p> <p>(1) 現行ルールでの問題は特になかった。</p>	<p>[1-4]</p> <p>(1) 引き続き、現行ルールをチェックしていく。</p>
2019年度	年次計画内容		
	<p>[1-1]（個人研究費関係）</p> <p>(1) 傾斜配分の検討を行う。</p> <p>(2) その他、個人研究費の柔軟な運用の可能性を検討する。</p> <p>[1-2]（外部資金関係）</p> <p>(1) 科研費への応募に関して全教員宛にメール・掲示を通して適切な時期にアナウンスし、申請対象者に説明会を開催する。</p> <p>(2) 科研費申請者に対しては個別の対応を行い、研究者の支援を積極的に行う。</p> <p>(3) 研究促進奨励金の「重点研究」のカテゴリでは、日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金への応募を条件とすることで、外部資金の獲得を目指す。</p> <p>[1-3]（研究業績関係）</p> <p>(1) 業績登録を researchmap に一元化した。情報の効率的利用、評価のために、状況をモニタする。</p> <p>(2) 研究アクティビティの高い教員の評価基準について、現状では研究促進奨励金の審査委員を依頼する形で行っている。それ以外の基準について検討する。</p> <p>[1-4]（在外・国内研究員制度）</p> <p>現行ルールで特段の問題は見つからないが、継続的にチェックしていく。</p>		

(4) 電子計算機センター運営委員会

中期計画【計画1】（目標1に対応する計画）		達成度評価指標【指標1】	
<p>[1-1] 教育研究システムの安定運用を図る。</p> <p>[1-2] e-learning 利用環境を組織的に整備するなど、教員のニーズに合わせた授業支援を行う。</p> <p>[1-3] 情報基礎科目の履修学生に対する学習支援を継続的に行うとともに、躰きのパターンを分析し、その情報を担当教員と共有することで、学生の理解度を高める工夫を行う。</p> <p>[1-4] ICT を活用した教育支援・学生支援の有益な情報収集を行うため、電子計算機センター運営委員若しくは情報処理課職員を各種研修会等に派遣し、本学にマッチしていると思われる試みを積極的に取り入れる。</p> <p>[1-5] サポートデスクスタッフがやっている映像教材への字幕挿入活動を教員に積極的にアピールし、利用してもらう事で、聴覚に障がいのある学生への講義保障支援を実施する。また、聴覚に障がいのある学生との懇談会を定期的実施することで、よりわかりやすい字幕挿入の仕方を追求しつづける。</p> <p>[1-6] 情報教育システム、アクティブラーニング教室といった新しい施設設備の有効活用を検討する。</p> <p>[1-7] 2キャンパス展開を踏まえた、利便性の高い新たな学生支援システムの構築を検討する。(2019追加)</p>		<p>[1-1] 情報教育システム課題管理表</p> <p>[1-2] 情報教育環境に関する調査</p> <p>[1-3] 情報基礎科目相談内容一覧</p> <p>[1-4] 研修報告、情報教育環境調査</p> <p>[1-5] 字幕挿入実績一覧、字幕挿入に関するアンケート調査等</p> <p>[1-6] 情報教育環境に関する調査</p> <p>[1-7] 学生支援システムに関する調査、検証（2019追加）</p>	
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[1-1] 教育研究にかかわるネットワーク環境の安定運用を図る。</p>	<p>昨年度、基幹ネットワークを更新した。ファイアーウォールの機能アップに伴い、よりきめ細かなセキュリティ設定が可能となった。</p> <p>セキュリティの向上に伴い、運用の安定度もアップした。</p>	<p>教育研究システムの安定運用に資する取り組みを継続して実施できている。</p>

7. 教育研究等環境

	[1-2] 継続し moodle の機能改善および安定運用を図る。	2018 年度もキャンパス e-learning システム(Moodle LMS)は安定運用されている。広範囲に必要な支援提供を行った。具体的内容は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートへの適用試行 ・年数回のセキュリティパッチ適用 ・アップデートとサーバパフォーマンスの最適化 ・全学的な新入生向け Placement Test の管理 ・カスタムプラグインの導入とトラブルシューティング ・年間 200 以上のコース作成 (学期ごと) ・教育支援課のための出席入力のコディネート ・経済学部ゼミナール登録 e-learning への要望調査は年度当初行ったが、特段の要請は無かった。	最新の動作環境を調査し必要な手当を行うことにより安定稼働を維持している。
	[1-3] サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。	コンピュータ基礎等の履修学生へのレポート課題の支援を日常的に行うとともに、前期と後期の 2 回、質問を受け付ける講習会を実施した。	支援講習会の相談内容をまとめ、分析することで履修学生の弱点を把握した。
	[1-4] 引き続き研修会等に参加し、参加者からの情報を共有した上で、本学への適用を検討する。	「大学 ICT 推進協議会」への参加、研究発表 (無線 Lan に関する研究) を行った。次年度以降のネットワーク統合環境整備のため、関係する研修に参加し、本学で適用するうえでの参考とした。	教職員の派遣による情報収集を継続して行うことができている。
	[1-5] 効果的な字幕挿入を検討するとともに、現在保有している 2 つの字幕入れソフトについて、比較・検証を行う。	「おこ助 3」という字幕挿入編集ソフトを検証したが、入力操作の面で、現行使用ソフトの「カムタジア」のほうが使いやすいとの結論を得た。	字幕挿入の質の維持・向上に向けた取り組みを継続している。
	[1-6] パソコン教室の環境を見直し、充実させるための方策を検討する。あわせて、キャンパス整備計画 (新札幌拠点展開) と連携し、将来の ICT 環境の検討を進める。	パソコン教室の OSX バージョンアップを行った。新札幌キャンパスの ICT 環境について、学園側へ情報提供を行った。	左記の作業によりパソコン教室の安定稼働を得ている。
2019 年度	年次計画内容		
	[1-1] 2020 年度に向けた教育研究にかかわるネットワーク環境、サーバ環境等の整備を図る。		
	[1-2] moodle の機能改善および安定運用を継続的に行う。		
	[1-3] サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。		
	[1-4] ネットワーク、I R、学生支援・教育支援システム等、大学改革に関係する研修会に参加し、本学への適用を検討する。		
	[1-5] サポートデスクスタッフと連携し、効果的な字幕挿入を検討する。		
	[1-6] パソコン教室のクライアント環境、一般教室の教卓 PC 環境を検討する。あわせて、キャンパス整備計画 (新札幌拠点展開) と連携し、将来の ICT 環境の検討を進める。		
	[1-7] 2 キャンパスで運用可能な、利便性の高い、新たな学生支援システムの構築を検討する。		

(5) 情報セキュリティ委員会

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】
[1-1] 個人情報の適切な保護と有効活用を行うため、個人情報に関する諸規程やガイドラインの見直しを常に行う。		[1-1] 個人情報に関する諸規程、ガイドラインの確認
[1-2] 学内ネットワークについて、適切なセキュリティ対策を施し、安全かつ安定的に運用を行う。		[1-2] セキュリティ対策作業実績
[1-3] 学生・教職員等の利用者に対し、継続的な注意喚起を行うことでセキュリティに対する意識を向上させ、インシデントを未然に防ぐ体制を維持する。		[1-3] 注意喚起等実施実績 (内容含む) インシデント履歴
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 個人情報保護に関するガイドラインの見直しと改定を行う。	ガイドラインを内閣サイバーセキュリティセンター等の最新情報を参考に改定し、教職員へ配付した。非常勤講師説明会等において周知した。
	[1-2] 学内の各システムについて脆弱性が報告された場合、電子計算機センターと連携して迅速かつ適切なセキュリティ対策を実施する。	左記の脆弱性に関する報告は受けていない。米国アップガード社のランサムウェア対策ソフトを検証したが、本学のシステムとの連携がとれず導入には至らなかった。
	[1-3] 引き続きセキュリティインシデントについて周知し、注意喚起を行う。インシデント発生未然防止に向けた啓発を行う。	インシデント発生防止のための情報提供をメール等により行った。しかしながら、今年度、学生の個人情報を格納した USB メモリを紛失するインシデントが発生した。これに対して、以下の再発防止対策を講じた。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		ガイドラインの見直しを行い、教職員へ周知した。
		継続的にファイアウォール等によるセキュリティ監視体制は維持されている。次年度以降、セキュリティ環境もより強固なものにするため、ネットワークの統合と、信頼性のあるクラウドへの段階的移行を計画している。
		セキュリティに関する情報提供を定期的に行ってきたものの、インシデントが発生した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・成績等の個人情報を取り扱う機会の多くなる定期試験の直前に、管理徹底を呼びかける注意喚起文を全教員(非常勤講師を含む)に配付し、あわせて学内に掲示した。 ・個人情報保護に関するガイドラインを見直し、学生支援システム、説明会等を通じて配付、周知した。 ・学生支援システムを活用した個人情報保存用フォルダの開設環境を整備した。 ・USBメモリ等の紛失時の対応として、いくつかの紛失防止の商品を検証し、メール、説明会を通じて教職員へ紹介した。 	
2019年度	年次計画内容		
	[1-1]	2018年度に改定した「個人情報保護に関するガイドライン」の周知徹底を図る。	
	[1-2]	ファイアウォール等によるセキュリティ監視体制を維持し、未知のマルウェアや不正侵入等の脅威を排除する。システムの脆弱性の報告された場合には電子計算機センターと連携して迅速かつ適切な対策を講じる。セキュリティ環境をより強固なものにするため、ネットワークの統合と信頼性のあるクラウドへの移行計画を具体化する。	
	[1-3]	引き続きセキュリティインシデントについて周知し、注意喚起を行う。インシデント発生未然防止に向けた啓発を行う。	

(6) コラボレーションセンター

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 実践的な学び、課題解決型学習 (Project-Based Learning) を効率的に進める環境を組織的に整備する。 [1-2] 学内ワークスタディの推進・拡大を通じて学生の就業力及び社会的資質の一層の向上を図ると同時に、経済的事情を抱える学生への支援機会を広く提供する。 [1-3] 実践的な学び、課題解決型学習 (Project-Based Learning) および能動的な活動に対する支援として、ピアサポーター (学生スタッフ) を配置する。ピアサポートによる学生同士の学び合いによる「学生がともに育つ相乗効果」の場を提供する。 [1-4] 学生の就業力を高めるために、学生発案のプロジェクトを支援し、学生の自主性、能動性を伸張させる。 [1-5] すべての学生が有意義な学生生活を送れるようにするために、学生生活への不適應を解消し、イキイキと活躍できる「居場所」を提供する。 [1-6] 大学 (第一キャンパス) の中心に位置する施設として、大学教職員、地域社会との協力を推進する。	[1-1] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート) ③教育支援に対する教員満足度調査 [1-2] ①学生スタッフ勤務実績 ②進路決定状況 ③補助金交付状況 [1-3] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート) ③教育支援に対する教員満足度調査 [1-4] ①プロジェクト活動参加人数 ②進路決定状況 ③学生満足度調査 (アンケート) [1-5] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート) [1-6] ①施設使用状況 ②教育支援に対する教員満足度調査	
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] (1) 実践的な学び、課題解決型学習 (Project-Based Learning) を効率的に進めるための環境整備として、必要な備品等を備えるとともに、施設使用モデル等を作成し、利用促進を図る。 (2) 企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。 (3) 課題解決型学習 (Project-Based Learning) を効率的に進める環境づくりのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。 (4) 『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。 (5) 任意の学生向けイベント情報 (コラボレーションセンターに限らず、他部署のイベントも含む) を統合したイベントカレンダーを作成し、周知する。	[1-1] (1) エントランスにおけるイベント時に利用するスピーカーや、貸し出し用のノートパソコンを整備した。また、教員向けの不定期メールマガジン「コラボメール」の配信を開始し、適宜コラボレーションセンターの情報発信をおこなう体制を作った。 (2) 実践的な学びの機会として、季節行事プロジェクト (七夕) において、「かき氷屋台」の運営を学生スタッフが実施した。 (3) 他大学への視察を実施することはできなかったが、学生スタッフが昨年度から参加している「北海道ピア・サポートコンソーシアム (幹事校: 北星学園大学)」へ参加した。 (4) 『コラボレーションセンター年報』第4号を発刊した。第4号では企業等に協賛広告を働きかけ、3社から協賛広告を出稿していただいた。 (5) 学内で開催される各種イベントの情報収集を行い、2週間ごとにイベントカレンダーを作成し、コラボレーションセンターエントランスのデジタルサイネージに公開した。	[1-1] 資料: コラボレーションセンター利用実績 資料: 学生満足度調査 (アンケート) (調査中) 資料: 教育支援に対する教員満足度調査 (調査中)
	[1-2] (1) 学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、学生スタッフを学年ごとに	[1-2] (1) 6月、9月の2回募集を行った結果、13名の学生スタッフを採用することができた。 (2) 新人スタッフが採用された時期に併せて、	[1-2] ・学生スタッフ勤務実績 (2018.4月～/6名) (2018.6月～/11名)

7. 教育研究等環境

<p>バランスよく採用する。 (2)学生スタッフの就業力及び社会的資質の向上を図るため、各種研修会への参加や学内の FD,SD 委員会主催イベントにも積極的に参加する。</p>	<p>教室の機器の研修を学生スタッフが講師役となり実施した。また、毎月開催している学生スタッフミーティングの中で、ビジネスマナー研修を実施した。引き続き、コラボレーションセンター運営委員会に学生スタッフも毎回必ず参加し、学生の視点から意見を述べ、コラボレーションセンターの運営に大きな役割を果たすことができた。</p>	<p>(2018.10月～/13名) 勤務総時間 4,752 時間 45 分 学生スタッフ最大 707 時間 55 分 学生スタッフ最小 58 時間 10 分 学生スタッフ一人当たり平均 365 時間 35 分 ・進路決定状況 学生スタッフ卒業対象者 1 名 (道内民間企業内定) ・補助金交付状況/3,362 千円 (未確定)</p>
<p>[1-3] (1)学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動 (ピアサポート) を展開する。 (2)北海道ピア・サポートコンソーシアムへの参加を通じて他大学の学生との交流を深める。 (3)学生スタッフの相談カウンターでの業務内容の幅を広げる。 (4)LINE@および Facebook ページによる新入生 (入学手続き者) からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。</p>	<p>[1-3] (1)在学生並びに新入生に対してのピアサポートとして、臨時のカウンターを3月下旬からエントランスに設置し、学内各所への橋渡し役となるピアサポートを実施した。 (2)北星学園大学で開催されたキックオフミーティング (5/26 開催) に学生スタッフ2名が参加し、本学の活動内容を発表した。 (3)職員が主に担当していた、講義等での施設利用支援に、学生スタッフが積極的に関わっていくなど、学生対応以外の業務の幅が広がった。 (4)Twitter、Facebook ページによる新入生からの相談窓口を開設し、新入生から 10 件の質問があり、学生スタッフが質問に回答した。また、新入生の入学後の不安を軽減する目的で、「入学前謎解きイベント」を実施し、54 名の新入生が参加した。</p>	<p>[1-3] 資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査 (アンケート) (調査中) 資料：教育支援に対する教員満足度調査 (調査中)</p>
<p>[1-4] (1)学生が中心になって構想、計画する学生発案型プロジェクトを募集する。 (2)今年度採択されたプロジェクトを紹介する動画を学生スタッフにより作成するなど、学内外に向けて積極的に情報発信する。 (3)学生発案型プロジェクトの活動報告会を開催し、プロジェクト間のつながりを広める。</p>	<p>[1-4] (1)「学生発案プロジェクト」の募集を行い、今年度は 5 件 (新規 2 件、継続 3 件) を採択した。 (2)採択された 5 件のプロジェクトを紹介する動画を、学生スタッフが作成した。 (3)最終報告会を例年よりも 1 ヶ月前倒して開催した。また、コラボレーションセンター年報の企画で、プロジェクト代表者に「学生発案プロジェクト座談会」に参加してもらい、プロジェクト間の交流を深めることができた。</p>	<p>[1-4] ・プロジェクト活動参加人数/計 25 名 1. 「音声認識を利用した情報保障プロジェクト」3 名 2. 「国内協定校「松山大学」・高知県土佐市との交流促進プロジェクト」5 名 3. 「めざせ！北海道初のフェアトレード大学プロジェクト！」7 名 4. 「携帯アプリ開発プロジェクト」3 名 5. 「幸福度を文献調査し、世界の現状を知るプロジェクト」7 名 ・資料：学生満足度調査 (アンケート)</p>
<p>[1-5] (1)友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のために、多くの学生が参加できる企画を実施する。 (2)部活動・サークルなどの紹介「部活動・サークル紹介 Time」の開催や応援など、帰属意識を高める企画を実施する。 (3)情報ポータルや FACEBOOK ページなどを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。 (4)季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り (四季の変化を学内に) を行う。 (5)「居場所」としての環境を維持、整備する。</p>	<p>[1-5] (1)経営学部新入生ガイダンス、新入生向けに「謎解きゲーム」を実施し、学生生活適応の手助けをした。 (2)ENTRANCE のデジタルサイネージを使用して、女子バスケットボール部全国大会の試合の様子を上映した。 (3)SNS などを使った情報発信を行う上で、ターゲットを明確にし、在学生には Twitter から積極的に情報発信を行った。また、これまで毎月発行していた「月報 (ポスター)」リニューアルし、情報量を増やした「広報コラボ (A4 版)」を毎月発行するようになった。 (4)「雛飾り」「五月人形」「七夕」「クリスマスツリー」「お正月」などの季節を意識した展示を行った。 (5)エントランスに設置した「利用者の声」、さらに、学生スタッフが日常的に清掃しやすいように、清掃グッズを充実させた。特に汚れが目立つ、SPACE2 のイスの清掃を行った。</p>	<p>[1-5] 資料：コラボレーションセンター利用実績</p>
<p>[1-6] (1)高校生や高校教員をターゲットにした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。 (2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。</p>	<p>[1-6] (1)大学祭開催時に「イントロクイズ」また、ハロウィンの時期に「謎解きゲーム」を開催した。大学開学 50 周年事業新札幌パネル展においても「謎解きゲーム」を開催し、多くの市民の方々に参加していただいた。</p>	<p>[1-6] ・資料：施設使用状況 ・資料：教育支援に対する教員満足度調査 ・プロジェクト活動参加人数/計 13 名</p>

	<p>(3)ホームページやFACEBOOKページなどのSNS（ソーシャルネットワークキングサービス）を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。</p> <p>(4)教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Lunch Time Talk」をエントランスで開催する。</p> <p>(5)卒業生に関与してもらえらる仕組みづくりを検討する。</p>	<p>(2)主催プロジェクトにおいて2つのプロジェクトを実施した。</p> <p>①アールブリュットアート展プロジェクト 昨年度に引き続き、障がい者支援事業所等から絵画や手作り作品を提供していただき、ENTRANCEを使って展示を行った。</p> <p>②江別市からの謎解きゲーム問題作成協力 江別市から「江別市リアル謎解きゲーム」の問題作成依頼を受け、2問問題を作成し提供した。</p> <p>(3)情報ポータル、ホームページに加え、Facebook ページ、Twitter アカウント、インスタグラムを使用して情報発信を行った。また、「SGU Lunch Time Talk 紹介動画」を作成し、広報入試課にも協力していただき、本学の公式ユーチューブチャンネルに登録した。</p> <p>(4)「SGU Lunch Time Talk」を4月から計8回実施した。また、札幌学院大学生協におにぎりを提供してもらおう企画も継続して行った。</p> <p>(5)センター長が検討したが、限られたスタッフの中では、ピアサポートの充実や、学内外への広報等、ほかに優先的に取り組むべき事柄が多いと判断した。そのため、今年度はイベントカレンダー作成、コラボメール配信、動画作成等を優先的に行った。</p>	<p>「アールブリュットアート展プロジェクト」10名 「江別市謎解きゲームプロジェクト」3名 ※上記には学生スタッフ含む。</p>
2019年度	<p>年次計画内容</p> <p>[1-1]</p> <p>(1)実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）を推進するために施設を紹介する動画を作成し、利用促進を図る</p> <p>(2)企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。</p> <p>(3)課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進める環境づくりのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。</p> <p>(4)『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。</p> <p>(5)任意の学生向けイベント情報（コラボレーションセンターに限らず、他部署のイベントも含む）を統合したイベントカレンダーを作成し、周知する。</p> <p>[1-2]</p> <p>(1)学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、学生スタッフを学年ごとにバランスよく採用する。</p> <p>(2)学生スタッフの就業力及び社会的資質の向上を図るため、各種研修会への参加や学内のFD,SD委員会主催イベントにも積極的に参加する。</p> <p>[1-3]</p> <p>(1)学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動（ピアサポート）を展開する。</p> <p>(2)北海道ピア・サポートコンソーシアムへの参加を通じて他大学の学生との交流を深める。</p> <p>(3)学生スタッフの相談カウンターでの業務内容の幅を広げる。</p> <p>(4)Facebook ページ及び Twitter による新入生（入学手続き者）からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。</p> <p>[1-4]</p> <p>(1)学生が中心になって構想、計画する学生発案型プロジェクトを募集する。</p> <p>(2)採択されたプロジェクトを紹介する動画を作成し、学内外に向けて積極的に情報発信する。</p> <p>(3)学生発案型プロジェクトの活動報告会を開催し、プロジェクト間のつながりを広める。</p> <p>[1-5]</p> <p>(1)友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のために、多くの学生が参加できる企画を実施する。</p> <p>(2)部活動・サークルなどを紹介するイベントの開催や応援など、帰属意識を高める企画を実施する。</p> <p>(3)情報ポータルや Twitter などを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。</p> <p>(4)季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り（四季の変化を学内に）を行う。</p> <p>(5)「居場所」としての環境を維持、整備する。</p> <p>[1-6]</p> <p>(1)近隣の小中学生を対象とした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。</p> <p>(2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。</p> <p>(3)ホームページや Facebook ページなどの SNS を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。</p> <p>(4)教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Lunch Time Talk」をエントランスで開催する。</p> <p>(5)卒業生に関与してもらえらる仕組み作りを検討する。</p>		

7. 教育研究等環境

(7) 常任理事会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
講義の担当時間と研究業績の公表等のバランスについて調査し、適切に管理する。		① 講義担当時間推移と研究業績の推移 ② カリキュラムの2キャンパス運用計画の策定と公表	
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> 2018年度開設の心理学部において、アフターケアを着実に実施する。 スカラシップ入試制度利用入学者に対する全学的な支援体制を検討・確立する。 2020年度開設予定の人文学部新学科の届出申請の準備を進める。 2021年度を予定している社会科学系3学部の統合に向けた準備を進める。 法学研究科の教員組織・カリキュラムの問題点と改善案を検討する。 教育支援の充実のために、さらなるFD活動の活性化とSDとの連携を促進する 	<ul style="list-style-type: none"> 予定されていたスケジュール通りにアフターケアを実施し、文部科学省に報告した。 教育支援課が中心となり、スカラシップ入試制度利用入学者特別プログラムを編成して実行した。スカラシップ入試制度利用入学者全員を対象に学長、副学長による面談を実施し、その内容を関連部局の長と共有した。 文部科学省への事前相談の結果を踏まえ、人文学部の再編の方針に変更を加えた。 社会科学系3学部の再編の方針を見直した。 法学研究科長と教員組織・カリキュラムの問題点について協議を重ねた。 教育支援をテーマに教育支援課主催で研究会を開催し、多数の教職員の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施したアフターケアの報告内容について、文部科学省からの指摘事項はなかったため、中期目標は達成されたものと評価する。 事後調査から、特別プログラムはスカラシップ入試制度利用入学者には概して好評であることが判明しているが、負担に感じるとの声も一部であったことから、2019年度のプログラム検討に向けた材料とすることができた。 予定の期限で人文学部及び社会科学系3学部の再編の方針を機関決定した。 法学研究科の教員組織・カリキュラムの問題点について、検討を具体化するには至らなかった。 教育支援にかんする知識・スキルの共有を一定程度図ることができた。
2019年度	年次計画内容	<ul style="list-style-type: none"> 新キャンパスにおける開講科目、特に教養科目・資格関連科目の開講の方針を確定する。 新キャンパスにおける施設・設備の仕様を確定する。 	

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
学生の学修環境及び教員の教育・研究環境の整備に関わる方針について、財政状況を考慮しつつ検討し、その結果を公表する。その方針に基づき、キャンパスの施設設備の整備を行う。		① 方針の策定と公表 ② 整備状況実績報告	
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> 新札幌キャンパスに関しては、基本計画を策定し、第I期に進出する新学部と社会連携に必要な施設・建物の基本設計と実施設計を進める。 G街区に進出する専門学校との連携協定を進め、I街区を含めた新札幌全体のエリア・マネジメントに参画する。 江別文京台キャンパスに関しては、学生規模に応じたキャンパスのコンパクト化と管理運営の効率化を進める。あわせて、学習環境改善と課外活動活性化のための施設整備を進める。 施設の補修、設備・機器・情報インフラの更新は、優先順位を付して年次計画的なメンテナンスサイクルを確立して経費を平準化する。 環境負荷の低減と消費電力削減を進める。 情報ネットワーク技術を適用した教育・研究施設の充実と情報セキュリティ対策のさらなる強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新札幌キャンパス校舎新築工事に係わる基本設計、実施設計及び監督業務、さらに施工業務について委託先を決定した。 拠点展開のための専門委員会を設け、関係する各部署と協力しながら基本設計を完了した。 コンソーシアムの構成員として、新札幌の街づくりに積極的にコミットするとともに、同じ地区に隣接する産業技術学園と定期的な協議を重ねた。 札幌市から景観プレ・アドバイスを受けた。 図書館書庫の増築、第2キャンパスの整備、老朽施設の解体等の大規模事業については、具体的計画の策定に至らなかった。今後、新札幌キャンパスと合わせた総合的なキャンパス整備事業として計画の具体化に取り組む。 江別文京台キャンパスにおいて快適な学習環境の整備を進め、老朽化した設備の計画的更新を行った。 環境負荷(二酸化炭素排出)の低減と消費電力削減のため、昨年度から引き続きLED化及び人感センサーライトの導入を進めるとともに、空調機は高効率タイプのものを導入した。 基幹ネットワークのセキュリティ対策の一環として、多様化・巧妙化するサイバー攻撃から情報資産を守る通信装置を導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点展開と産学連携の小委員会を設置し、専門のコンサルタントと相談しながら、大成建設と定期的にミーティングを実施し、基本設計を策定した。その後、実施設計と精密設計の段階に入り、施工となる。定期ミーティングの議事録や設計・工事計画表を参照。 新札幌全体連絡会議の議事次第を参照。エリア・マネジメントについて、検討を続けている。 札幌市の景観プレ・アドバイス資料を参照。これに基づき、建物の外観デザインと青少年科学館前のふれあい公園から続くプロムナードの検討を進めている。 B館・C館・図書館の空調設備、L館・A館のエレベータ、A館小教室・SGUホールの視聴覚機器、食堂厨房機器等の整備を実施した。 省エネルギー対策により、2018年度の電力使用量は2015～2017年度の3か年平均に比較して87%、電気料金は91%に抑えることができた。 堅牢な情報セキュリティ基盤が確立し、情報ネットワーク技術を活用した教育・研究が活発化した。
2019年度	年次計画内容	<ul style="list-style-type: none"> 学生規模に応じたキャンパスのコンパクト化と管理運営の効率化を進める。あわせて、学習環境改善と課外活動活性化のための施設整備を進める。 施設の補修、設備・機器・情報インフラの更新は、優先順位を付して年次計画的なメンテナンスサイクルを確立して経費を平準化する。減価償却引当特定資産に一定額をプールして所要経費を調達する。 環境負荷(二酸化炭素排出)の低減と消費電力削減を進める。 情報ネットワーク技術を適用した教育・研究環境の充実を図るとともに、情報資産を脅かす新たなリスクが次々に発生する現状を踏まえ、情報セキュリティ対策のさらなる強化を図る。 	